

地域のパンデミックプランニング

次の新型インフルエンザ発生に備える!! —ワクチンと抗インフルエンザウイルス薬—

田辺正樹

三重大学医学部附属病院感染制御部部长(病院教授)

田村大輔

自治医科大学附属病院小児科講師

山岸義晃

大阪大学医学部附属病院感染制御部

新型インフルエンザ等のパンデミック発生に備え、各地域において、研修会の開催や訓練の実施などさまざまな準備が行われている。発生早期の連絡訓練、患者発生を想定した机上訓練、個人防護具の着脱を含む実働訓練などが挙げられる。

地域のパンデミックプランニングを行ううえで、このような訓練の実施は、もちろん重要であるが、新型インフルエンザ等発生時に対応を行う行政担当者や医療従事者の安全確保、および、まん延期の医療体制を構築するうえで、ワクチンと抗インフルエンザウイルス薬の確保も求められる。なお、ワクチンについては、流行するウイルスの型が重要であるため、特にプレパンデミックワクチンを検討するうえでは、どのタイプのウイルスがパンデミック

を起こす可能性が高いかを事前に評価しておく必要がある。

本稿では、パンデミック発生のリスク評価を行った米国 Centers for Disease Control and Prevention (CDC) の Influenza Risk Assessment Tool (IRAT)¹⁾、ならびに、日本の(プレパンデミック・パンデミック)ワクチンおよび抗インフルエンザウイルス薬の準備状況について紹介する。

1 Influenza Risk Assessment Tool (IRAT) によるパンデミック発生のリスク評価

季節性インフルエンザ(現在、ヒトのあいだで流行しているインフルエンザ)を除く A 型インフルエンザのパンデミック発生のリスクについて、米国 CDC が IRAT を用いて評価している。

IRAT は、新型インフルエンザ対策のなかでの優先順位を評価するためのツールとして作成されたものである。「ウイルスの特性」、「集団の属性」、「ウイルスの生態および疫学」のカテゴリーからなる 10 の評価基準をもとに、「潜在的な発生リスク」と「潜在的な影響リスク」について 10 段階でスコア化し、最終的に潜在的なパンデミック・リスクを 3 つのカテゴリー(低リスク、中リスク、高リスク)に分類している(図 1)²⁾。なお、パンデミックインフルエンザの発生は予測できないため、この IRAT は、あくまで評価ツールであって予測ツールではない点に注意が必要である。

図 1 の結果より、現在最もリスクの高い A 型インフルエンザは、H7N9 と評価されている。鳥インフルエンザ